

内容は水産研究課ホームページでも公開しています。
更新は、原則として火曜日夜間におこないます。

徳島県立農林水産総合技術支援センター
水産研究課海洋生産技術担当

海況

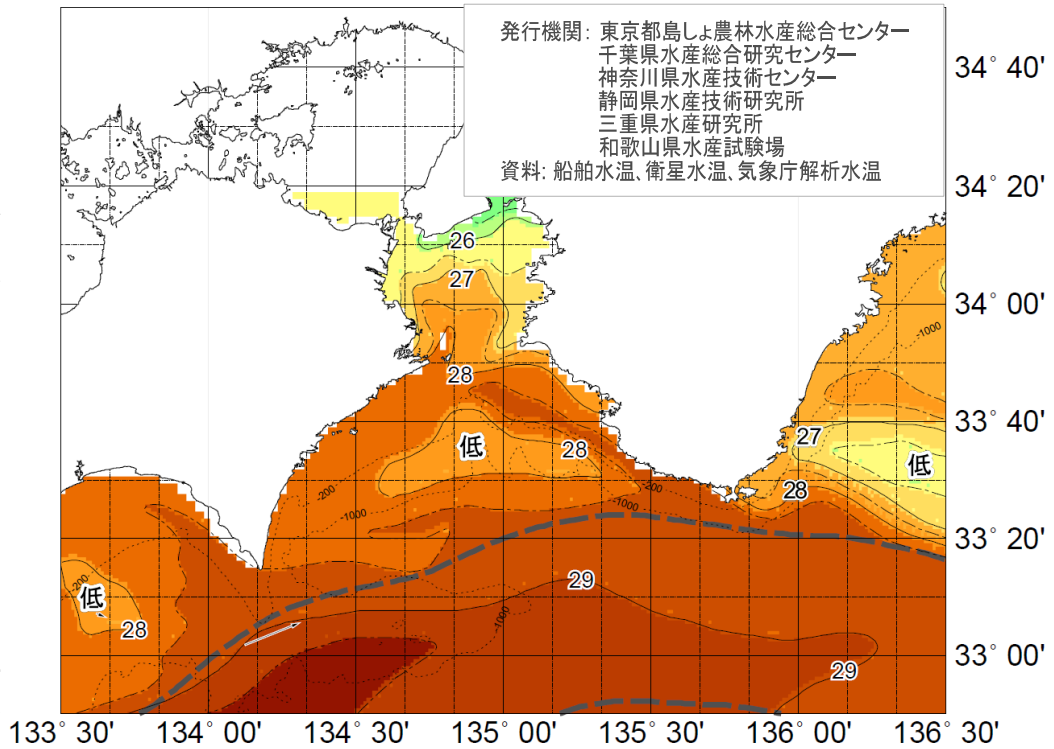
1. 周辺海域の水温

右に8月30日時点の海況図を示した。

黒潮は、室戸岬沖では先週から引き続き「やや離岸」、潮岬沖では先週から引き続き「接岸」となっている。

黒潮本流の表面水温は、28℃台後半～29℃台であり、先週よりやや下がっている。

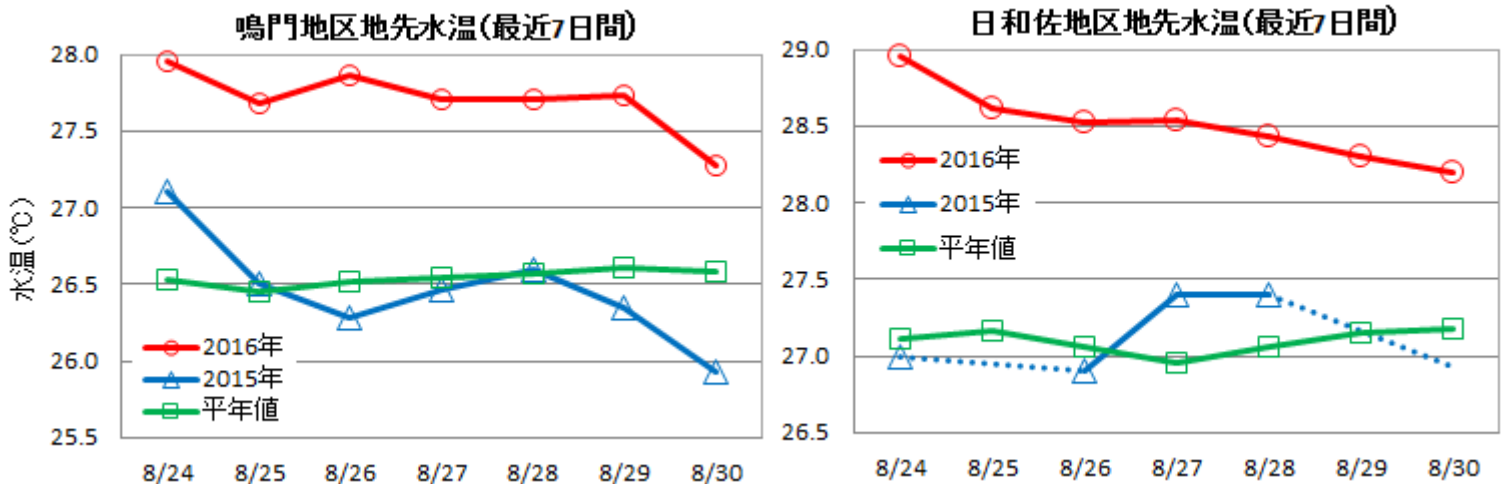
徳島沿岸の表面水温は播磨灘で26℃台、紀伊水道で26℃～27℃台、海部沿岸で28℃台となっており、全体的に先週より下がっている。降雨やそれに伴う日照の低下、波浪による海水混合が原因と考えられる。



海況図は、平日夕方に水産研究課HPの「地先水温情報」のページに、前日分と当日分を掲載しています。

2. 地先水温

最近7日間の地先水温は、鳴門地区は「やや高め」の28.0℃～27.3℃、日和佐地区は「やや高め」～「高め」の29.0℃～28.2℃で右肩下がり、牟岐地区は期間はじめに「高め」～「かなり高め」で25日に30.0℃に達したが、以降は「やや高め」～「高め」の28.4℃～28.8℃で推移した。



※水温の高低 平年並: 平年値±0.5℃未満, やや高め/やや低め: 平年値±0.5℃以上1.5℃未満
 高め/低め: 平年値±1.5℃以上2.5℃未満, かなり高め/かなり低め: ±2.5℃以上
 ※平年値 鳴門地区: 1981年～2015年の平均値, 日和佐地区: 1982年～2015年の平均値
 牟岐地区: 1991年～2015年の平均値

3. 週間予報

黒潮は、引き続き、室戸岬沖は「やや離岸」、潮岬は「接岸」で推移する見込み。

地先水温は、鳴門地区、日和佐地区ともに「やや高め」で、鳴門地区は27℃台、日和佐地区は28℃台で推移する見込み。

漁況 8月22日～8月28日

1. 紀伊水道(標本漁協:3)

全体の漁獲量は、船びき網の漁獲量が減った影響で、大きく減った。
船びき網では、1隻当たりの水揚げが大きく減ったため漁獲量も大きく減って、シラスが10.9ト水揚げされた。

釣りでは、イサキが前週から大きく増えて0.6ト水揚げされた。
延縄では、タチウオが特大主体に3.9ト、ハモが3.6ト水揚げされた。
小型定置網では、マアジが豆アジ主体に0.8ト、イサキが0.7ト、カンパチが0.3ト水揚げされた。
底びき網では、ハモが5.9ト水揚げされた。

2. 海部沿岸(標本漁協:4)

台風等の影響で出漁隻数が大きく減ったため、全体の漁獲量は大きく減った。
延縄では、アカムツが0.4ト水揚げされた。
このほか、表にはないが、釣りでイサキが0.18ト水揚げされている。

漁獲量集計表(漁獲が0.2ト以上のものを抜粋)

海区	漁業種類	出漁隻数 (のべ)	魚種	漁獲量	(kg)	銘柄	前週比※
					1日1隻あたり 平均漁獲量		
紀伊水道	船びき網	87	シラス	10,875	125		↘↘
	釣り	23	イサキ	633	28		↗↗
	延縄	62	タチウオ	3,850	62	特大主体	↗
		33	ハモ	3,576	108		→
	小型定置網	23	マアジ	751	33	小小主体	↗↗
		21	イサキ	700	33		↗↗
		24	カンパチ	301	13		↘
		22	マダイ	299	14	小小主体	↗↗
		22	マルアジ	201	9	大主体	↗
	底びき網	37	ハモ	5,865	159	中主体	→
24		えそ類	515	21		↗↗	
海部沿岸							
	延縄	12	アカムツ	383	32		→

※ 前週比 200%以上:↗↗、120%~200%:↗、80%~120%:→、50%~80%:↘、前週比50%未満:↘↘
なお、週間漁海況情報第33号では第32号で漁況を休載したため8月8日から21日までの2週間分を集計したが、今回の前週比の漁獲には8月15日から22日までの1週間分の合計を用いている。

用語の紹介

いつも週間漁海況情報をご利用いただきありがとうございます。
空きスペースで、これまで断りなく使ってきた用語を説明をさせていただきます。

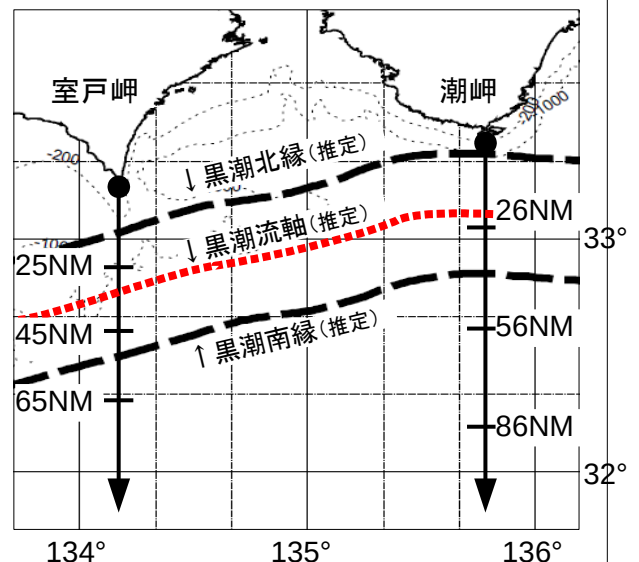
海況の「1. 周辺海域の水温」で紹介している黒潮の離接岸の表現は、執筆者の主観ではなく、次の基準に基づくものです。

	接岸	やや離岸	かなり離岸	著しく離岸
室戸岬	~25NM	25~45NM	45~65NM	65NM~
潮岬	~26NM	26~56NM	56~86NM	86NM~

(1NM(マイル)≒1.85km)

これは、1972年に東海大学出版会から出版された「海洋物理学Ⅱ」という本の「黒潮と親潮の海況学」という項の中で川合英夫先生が提唱されたものです。室戸岬と潮岬ではともに正南方向の黒潮流軸までの距離を基準にします。

これをある日の海況図に当てはめてみると右図のようになります。この日の黒潮は、室戸岬沖で「やや離岸」、潮岬沖で「接岸」と判断されます。



※ 普段掲載している海況図に流軸は描画されていません。